

障がい者の路線バス運賃無料制度が障がい者の生活に与える影響の研究

特定非営利活動法人プロジェクトゆうあい 田中隆一

1) 背景と目的

障がい者の路線バス運賃無料制度は全国的にも珍しく、島根県内では松江市が唯一、本制度を設けている。障がい者が日常生活において経済的な負担感がなく路線バスで市内の移動ができるこの制度について、障がい者就労支援事業所を利用する障がい当事者等を対象に、松江市内の障がい者の路線バス移動の実状を把握するとともに、同制度によって生活における移動にどの程度メリットを与えているかを把握し、同制度を評価する。

2) プロジェクトの内容

松江市内で障がい者就労支援事業所を運営する障がい者就労支援事業所の利用者34名に対して日常での路線バスの利用の状況、障がい者を対象にした路線バス無料制度による外出頻度、行動に関わる影響、バスの情報ツールなどを設問とするアンケートを実施し、その結果を集計、評価した。一方で、多数の障がい者の方々と密接に関わる松江市内の障がい者相談支援事業所に所属する相談支援専門員10名に対し、同様のアンケートを実施した。

一方で松江市障がい者福祉課に対して、障がい者に対しての路線バス割引、無料制度である「優待バス制度」について、制度設立の背景や目的、本事業の実施に係る財源、年間の事業費について、アンケートを行った。

また、松江市障がい者福祉課を通じて全国において路線バスの障がい者向け無料制度を有している自治体を把握することとした。

3) 効果

障がい当事者へのアンケートからは、障がいのある方が、事業所への通所以外にも様々に路線バスを活用していることが把握された。その上で、路線バス無料制度が、障がいのある方の行動範囲を広げ、外出の頻度を高めているとともに、本制度がない場合に外出頻度が減ることを把握することができた。また相談支援専門員へのアンケートからは、ひきこもりの方の外出にも有効であることが把握された。

4) 結論

本制度は、当事者の立場及び支援者の視点から見て、極めて評価が高く、制度の有効性が示されるとともに、制度の継続的な運用が求められていることが分かった。本調査結果により、松江市における本制度の継続運用にむけての裏付けにすることができた。本制度による事業費は、松江市の場合、障がい者通所支援に関わる市の負担額の6%程度であり、合理的な事業費であることが読み取れる。

路線バスの情報を得るためのツールとしてはどこでもバスブックが大きな役割を果たしている。

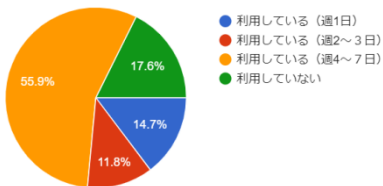
また、全国的には障がい者を対象にした路線バス無料制度を有している自治体は極めて少ないが、本研究をもとに全国各地で同制度が広まることに大きく期待したい。

障がい者就労支援事業所 通所利用者向けアンケート結果

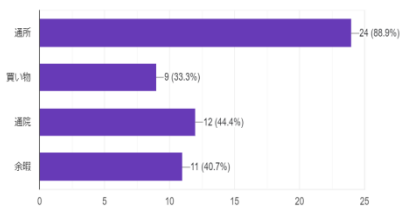
<アンケート調査の概要>

松江市内の障がい者就労継続支援事業に取り組むプロジェクトゆうあい（就労継続支援 A 型、B 型、移行）、および PC エコステーションゆうあい（就労継続支援 B 型）の通所利用者 5 2 名のうち 3 4 名からアンケートにより回答を得た。アンケートは令和 4 年 4 月に行った。

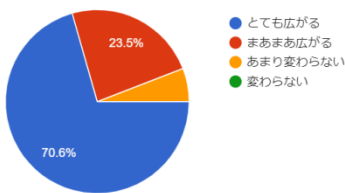
1) 路線バスを普段利用されていますか？



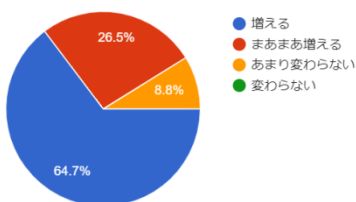
問 2) 路線バスを、どのような用途で利用していますか



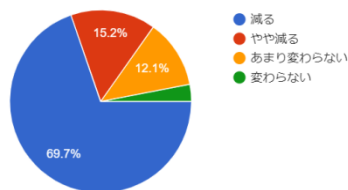
問 3) 障がい者の松江市内運賃無料制度によって、障がいのある方の行動範囲は広がると思いますか？



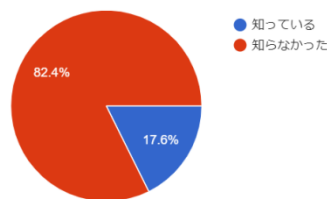
問 4) 同制度によって、外出の頻度は増えると思いますか？



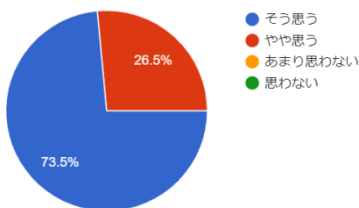
問 5) 同制度がなかった場合（半額補助の場合）、外出頻度は減ると思いますか？



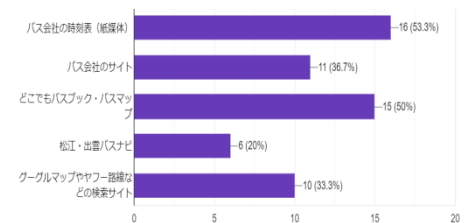
問 6) 同制度があるのは全国的にも珍しく、島根県内で松江市のみであることをご存じですか？



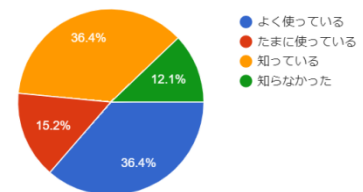
問 7) 同制度は、障がい者の生活の質を高めるまたは利便性を高める上で有効と思われますか



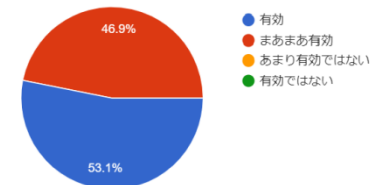
問 8) 路線バスを利用するにあたって、どのような情報を活用されていますか？（複数回答可）※路線バスを利用している方みの回答



問 9) どこでもバスブック（バスマップ）をご存じですか？



問 10) どこでもバスブック（バスマップ）は障がいのある方の路線バス利用に有効と思われますか



障がい者相談支援事業所 相談支援専門員アンケート結果

<アンケート調査の概要>

松江市内の障がい者相談支援事業に取り組む 20 の事業所に呼びかけ、10 事業所の相談支援専門員からアンケートにより回答を得た。アンケートは令和4年6月に行った。

1) 担当している障がい者の人数

→合計 650 名

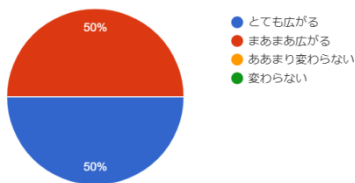
平均 65 名/事業所

問 2) 上記のうち普段、路線バスを利用されている方の人数は?

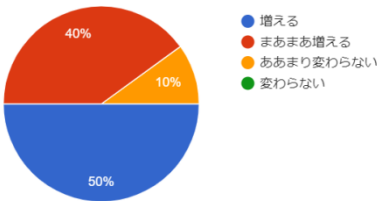
→合計 294 名 (約半数弱)

平均 29 名/事業所

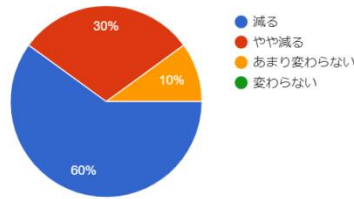
問 3) 障がい者の松江市内運賃無料制度によって、障がいのある方の行動範囲は広がると思いますか?



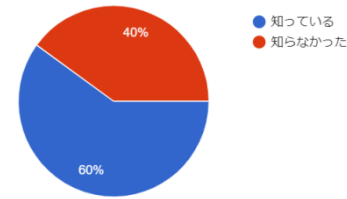
問 4) 同制度によって、外出の頻度は増えると思いますか?



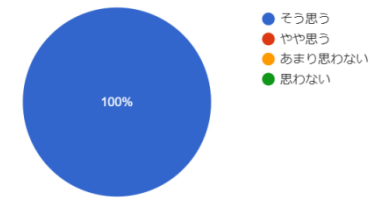
問 5) 同制度がなかった場合(半額補助の場合)、外出頻度は減ると思いますか?



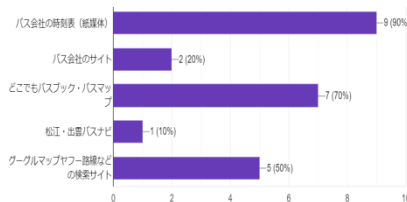
問 6) 同制度があるのは全国的にも珍しく、島根県内で松江市のみであることをご存じですか?



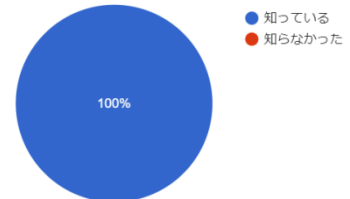
問 7) 同制度は、障がい者の生活の質を高めるまたは利便性を高める上で有効と思われますか?



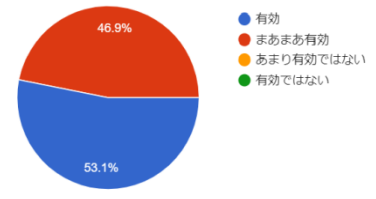
問 8) 路線バスを利用するにあたって、どのような情報を活用されていますか?



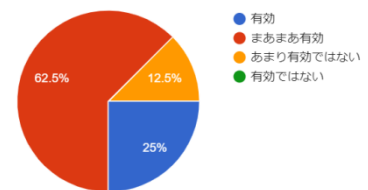
問 9) どこでもバスブック(バスマップ)をご存じですか?



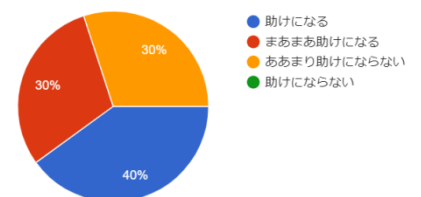
問 10) どこでもバスブック(バスマップ)は障がいのある方の路線バス利用に有効と思われますか?



問 11) どこでもバスブック(バスマップ)は障がいのある方の路線バス利用に有効と思われますか?



問 12) 同制度はひきこもりなど、家を出ることが難しい方への助けになると思いますか?



■障がい当事者アンケート自由意見から

- ・少ない収入を気にすることなく外出できる。遠回りの路線でもより近いバス停を利用できる。
- ・収入の低い又は不安定人にとって移動の負担軽減は助かります。
- ・移動にかかるお金がほぼゼロになるため、家計が本当に助かります。無料ということで、少し遠いところでも足を運ぶきっかけにもなりますし、近辺でも体調が悪いときはバスに乗って帰れるという選択肢が取れるので外出する上でより安心できます。
- ・行動の範囲が広がる ・出かける頻度が増えると思う ・外に出る頻度が増える ・外出しやすくなると思う。
- ・バスを利用する際の経済的、心理的バリアが軽減され障がいの不便さを弱めるのに役立つ
- ・事業所への通所や外出のモチベーションが高まるきっかけにはなると思う。ICカードにスムーズに移行できるか若干不安がある。
- ・無料運賃制度にはとてもお世話になっています。障がいがあると車を運転するのが困難な場合もあるので個人的にはバスが無料で利用できるのはとてもありがたいです。ぜひ継続していただきたいと願っています。
- ・通所が楽になるのでとても良いことだと思います。 ・外出の際、バスを利用することで行動範囲が広がっている
- ・引きこもりがちの自分がこの制度のおかげで、たまに外出してみようと思うようになった
- ・障がいのある方は収入も少ないし生活にとってもメリットがあると思う。 ・松江市は全国的に進んでいると思った。
- ・無料制度つかわしてもらってありがとうございます。 ・とても利用しやすく助かっている
- ・家にこもらない。市内の JR、一畑電車が無料になると行動範囲が広がる。 ・車いすが乗れないと乗らない
- ・雨の日に外出ができることができる。遠外できることが多くなる ・雨天のときなど便利である

■相談支援専門員アンケート自由意見から

- ・外出のハードルが下がる。家族に気をつかわず外出できる。受診の際の負担軽減
- ・無料であるためバス利用を促しや、無料であることで、バスを利用して外出しやすくなっていると思う。
- ・通院回数、通所回数を維持できるし経済的理由での減少を回避できる ・金銭面助かる。行動範囲が広がる。
- ・外出しやすくなり社会参加機会が増える。就労先への通勤に必須 ・孤立を防ぐ。社会参加のトレーニング。金銭的負担の軽減。
- ・経済的負担の軽減、活動範囲が広がる。現在コミュバスは定期券を購入しなければ無料になりません。定期券の購入から払い戻しの手続きがもう少し簡素化されるともっと利用しやすくなると思う。
- ・負担なく外出できるため通所でバス利用をしている方にとってはなくてはならない制度だと思います。

■松江市における優待バス制度の概要（松江市障がい者福祉課への質問から）

※介助者の半額割引などを含めて松江市では「優待バス」の名称を用いている

質問	回答
本制度が運用されたのはいつからか？	運用開始時期は不明だが昭和 54 年度には交通局で既に運用されていた。平成 19 年度から一畑バスと日の丸自動車が加わった。
制度が開始された経緯、理由はなにか。	障がい者の社会参加を促進するため
本制度を利用している障がいのある方は年間の実績で何人か？	(延べ人数) 令和元年度：73 万人 令和 2 年度：59 万人 令和 3 年度：63 万人
本制度による行政が負担している費用は年間いくらか？	令和元年度：9 千 9 百万円 令和 2 年度：8 千 1 百万円 令和 3 年度：8 千 6 百万円
本制度の財源はどのように確保しているか？	一般財源に加えて、電源立地地域交付金を活用している。
制度の継続、廃止などの方針が現時点であるかどうか	なし。
本制度についての、当事者や支援者等からの意見は聞いたことがあるかどうか。調査結果があるかどうか。	纏まった調査はしていないが、カードの更新時期などには概ね好意的なご意見が多く寄せられる。
障がい者通所支援（就労継続支援 AB 移行）に関わる松江市の年間負担額はいくらか？（同予算に対する交通費負担額の割合を把握したい）	就労継続支援事業費（令和 3 年度） A 型：2 億 6 千万円 B 型：10 億 4 千万円 移行：4 千万円 合計 13 億 4 千万円 →障がい者優待バス制度の費用は通所支援費に対して約 6 %

■全国における障がい者向け路線バス無料制度を取り入れている自治体

以下、松江市役所からの聞き取りをもとに自治体 HP を確認して把握した。なお、島根県内では松江市以外の自治体では同制度に取り組む自治体はない。

青森市／秋田市／奈良市／尼崎市／明石市／呉市／山口市